

## 消化器科専門医に聞く

富山労災病院 第二消化器科部長

やぎ みつる  
八木 満

### — 消化管感染症について —



今回は、この時期になりやすいO157を含め急性の腸管感染症についてお話させていただきます。急性腸管感染症は、下痢・腹痛・嘔吐・発熱等の症状が急激に出現し、発症の時期が明らかなものを指します。

原因の特定や治療のためには、季節性の考慮、発症経過や食生活・生活スタイル等の問診が役立ちます。季節では夏季には細菌性、冬季にはウイルス性のものが多く、代表例としては、細菌ではカンピロバクター・サルモネラ・O157を含む腸管出血性大腸菌・腸炎ビブリオ・ブドウ球菌が、ウイルスではノロウイルス・ロタウイルスがあります。

多くは原因食の推定と、発病までの潜伏期間を合わせて原因菌・ウイルスの見当をつけます。原因食としてはカンピロバクターの鶏肉、サルモネラの鶏卵、腸管出血性大腸菌の牛肉、腸炎ビブリオの魚介類、ノロウイルスの生カキなどがよく知られています。潜伏期間は最も短いのはブドウ球菌で約3時間、以下サルモネラや腸炎ビブリオは24時間以内、ノロウイルスは1～2日、カンピロバクターは2～5日程度、腸管出血性大腸菌は1～14日（多くは3～5日）と比較的長いものもあります。

症状は殆どの腸炎で下痢・腹痛が認められますが、血便を伴うものとしてカンピロバクター・腸管出血性大腸菌が、発熱を伴うものとしてカンピロバクター・サルモネラが、嘔吐を伴うものとして腸炎ビブリオ・ブドウ球菌・ノロウイルスが挙げられます（もちろんこの通りとは限りませんが）。



最終的には便培養・ウイルスチェック等を行って確定ということになりますが、原因菌・ウイルスが検出されない場合もあります。

治療としては、軽症の場合は消化の良い食事経過を見ることもありますが、嘔吐・下痢が強い場合は脱水補正のため十分な点滴を行います。また、細菌性と考えられ必要と判断された場合には抗菌薬を使用することもあります。その他各種の整腸剤内服を行うこともありますが、いわゆる下痢止めは病状を悪化させることもあるため使用しないことが殆どです。

以上、要点のみをお話しましたが、腸管感染症の対策としては、十分な手洗いや加熱、おかしいな？と思ったら口にしない等の予防策が大切と考えられます。ただし、どんなに気を付けていても罹患することはありますので、上記症状があり思い当たる節があれば医療機関を受診することをお勧めします。

ご質問やご相談は地域医療連携室まで、また富山労災病院ホームページもご覧ください。

発行：独立行政法人労働者健康福祉機構  
富山労災病院 地域医療連携室  
〒937-0042 魚津市六郎丸992

Tel: 0765-22-1354

Fax: 0120-935-631 (フリーダイヤル)

### 富山労災病院 救急外来からのお知らせ

富山労災病院では終日救急患者の診療を行っております。また、平日の午後5時以降および休日は救急外来を開設しており、病状により専門医師が診療いたします。

受診される場合22-1280までお電話下さい。



# 専門医紹介 整形外科

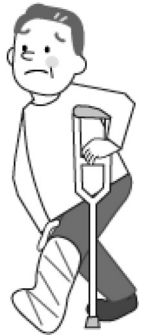


整形外科医師 平岩利仁（ひらいわ としひと）

## — 整形外科医のお仕事 —

今年4月から富山労災病院に赴任しました。幅広く一般整形外科を中心に日夜業務を行っております。整形外科は体幹・手足を中心にほとんどの個所をカバーし、骨折に限らず年齢や度重なる負荷に伴う変性疾患や、骨以外の軟部組織の損傷も担当します。

われわれ整形外科の行う治療として、整復・固定・リハビリテーションがあります。ギプスや手術などでは整復・固定を行い、除痛を兼ねて薬も使用しますが、これで治療は終わりではありません。固定をしすぎることの弊害も少なからずあり、リハビリテーションの指導も重要な仕事です。自分たちだけで行うことは難しく、理学療法士・作業療法士にお願いすることも多々あります。みなさんの社会背景なども考慮しながら、一人一人に適切な治療をすることに難しさを感じつつもやりがいも感じます。当科の外来は混雑もしておりますが、お困りの方はご相談ください。



## こんな時どうしたらいいの？Q&A(お薬編)

**Q**：病院でもらったお薬を、後日同じような症状の時に使用してもよいのでしょうか？

**A**：医師が処方するお薬は、診察を受けられた際の状態に合わせたものです。以前に処方されたお薬を自己判断での使用は避けましょう。あらためて医師の診察をお勧めします。



**Q**：薬を服用前後、お酒を飲んでも良いですか？

**A**：薬の効き目を強くしたり、弱めたりすることがあるので、薬を服用しているときは、原則としてお酒を飲まないように心掛けましょう。食べ物や喫煙でも薬の効き目に影響することがあります。



お薬のことで分からないことや、ご不安な事がありましたら  
薬剤部窓口にご気軽にご相談ください。

## 専門外来の紹介

物わずれ外来：(月)(木) 午前10時～12時  
頭痛外来：(火)(木)(金)  
午前11時～12時  
しびれの外来：(月)～(金) 午前9時～12時

関節外来：(月)～(水) 午前9時～12時  
腰痛外来：(水) 午後1時30分～4時  
リウマチ外来 整形：(火) 午前9時～12時  
リウマチ外来 内科：(月) 午後2時～  
尿失禁外来：(水) 午後1時30分～3時

今月の休診：(内) 八木医師 2日・5日、新敷医師 11日・15日、山田医師 9～10日、篠田医師 8日  
久保医師 8日・25日、川崎医師 23日・26日 (整) 平野医師 10日～12日、渡邊医師 15日・  
17～18日 (外) 吉本医師 11～12日、25～26日 (脳) 中島医師 18日、朴医師 24日・26日  
(眼) 小林医師 5日・8日・15日・26日 (健診) 長谷部医師 22日・24日～27日